



Comparative Literature

比較文学専修

比較文学は、主に西洋と日本の近代文学の相互関係を研究する学問です。ただ個々の作品の影響関係を貸借表や成分表示のように並べるだけではありません。そうした「西洋」の近代文学を受容する必要が生まれた文学のグローバリゼーションという大前提や、それに対する抵抗や独自の変容についても検討する必要があります。

例えば、オリエンタリズムやジャポニズムといった西洋の東洋に対する関心は、日本でどのように交錯したのか、その結果、「日本」や「西洋」という枠組み自体が、どのように作られ、変化していったのか、そのような相互交渉を扱うところが比較文学の本領といえます。

このほか、ある主題に従って世界の文学を横断するテーマ研究、絵画と文学といったジャンル間交渉、世界の各帝国と（脱）植民地主義をめぐる問題なども比較文学の対象となります。

いずれにせよ、一方ともう一方とを比較する以上、その両方について綿密な調査と実証が欠かせません。そして両者の比較を可能にするだけの確かな外国語運用能力と厳密な方法論も求められることになります。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/hibun>



左：葛飾北斎「富嶽三十六景」(1830年代)の「東海道程ヶ谷」
漫画を描く時に重要なパース。消失点に向かって奥行きを見せる透視図法ことパースペクティブは、ヨーロッパで発達しました。この画法は中国やヨーロッパの書物を經由して、江戸時代の日本にも紹介されますが、消失点が難しかったようです。そのため、もっぱら手前の近景と遠くの風景を対比させる、文字通り「遠近」法として定着します。そんな「遠近」法を駆使した北斎の浮世絵は、19世紀の欧米で新鮮な構図として転用されることとなります。

右：ロレンス・ハウスマン『アラビアン・ナイト物語』(1907)収録のエドモンド・デュラックによる挿絵。

デュラックが生まれ育ったフランスは、日本趣味ことジャポニズムの震源地となりました。ただし、デュラックが絵を学んだ20世紀始めには、絵画にみる日本ブームはほぼ終息していました。そこで彼は英国に渡り、挿絵という複製品で日本趣味を巧みに取り入れ、人気を博します。馬をラクダに、富士山を目的地の街に置きかえるなど、左図の右半分を違和感なく転用していることがうかがえるでしょう。なお場面は、デリアバーの娘が、殺された恋人の復讐に向かうという、ちょっと恐ろしい一幕です。

教員

橋本順光 教授 はしもと・よしみつ
鈴木暁世 准教授 すずき・あきよ

何を学んでいるの？

比較文学入門

現代の小説や映画が、どのようにして世界中で共有されるようになったのか、その経緯について、西洋文学の大きな流れや各地での衝撃や衝突を概観し、分析するための理論を学びます。

どんな授業があるの？

【講義題目】

オリエンタリズム研究と比較文学

【演習題目】

オリエンタリズム小説と近代日本

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

『悲しみよこんにちは』の受容と母殺し

無名の少女が初めて書いた小説がベストセラーになり、社会現象まで引き起こす。まるで漫画の『響』ですが、サガンの『悲しみよこんにちは』(1954)は、そんな小説の先駆けとなりました。日本でも類似作品が生まれるなど、米国に敗戦したゆえのフランス・ブームもあり、話題になります。そこに「母殺し」という見逃されがちな主題に注目する点が秀逸です。(選：橋本順光 教授)

裏切者ユダの表象と日本における変容

キリストを裏切ってしまう弟子のユダは、絵画でもおなじみでしょう。19世紀になると、ユダに焦点をあてた小説が欧米で登場します。フランケンシュタイン物語と同じく、博士よりも怪物が主人公になるわけです。太宰の「駈込み訴え」などにみる愛憎は、手塚治虫がブッタとダイバダッタの関係に援用するなど、広く影響しました。本論は、西川美和の映画『ゆれる』にその隠れた反響を聞き取ります。(選：橋本順光 教授)

【卒業論文題目】

シャープ/マクラウドと薄田泣菫

郡虎彦の『義朝記』とギリシア悲劇

吉田喜重の映画『嵐が丘』にみる翻案

新選組の映画化における同性愛表象

満洲映画にみる李香蘭とその受容

海野十三作品にみる女性探偵表象

山岳異民族幻想と国枝四郎

灰谷健次郎の『太陽の子』と沖縄

「人魚の涙」とその戦後文学への転用

戦後日本の児童文学にみる「黒人」表象



『ネバーランド』
恩田 陸：著
集英社／2000

恩田陸『ネバーランド』。日本のとある男子校の寮で、冬休みに居残りを選んだ少年たちが過去を告白します。作者自身、萩尾望都の『トーマの心臓』をオマージュしたと述べており、要素は似通っています。ただ少年を傷つけるのが女性であったり、彼らもまた警戒しあうなど、作風はかなり違います。戦前日本の少女文化には、成熟した女性への嫌悪や反発が見られるといえます。実は『ネバーランド』の少年たちも、そんな少女が転生しているのかもしれませんが。(2年)

一学校は不思議な場所で、毎年同じことを繰り返しているのに、学生はそれをほぼ一度きりのこととして経験します。高2の冬休みは、友人とそれほど親しくなく親離れできなかった高1とも、受験で忙しくなる高3とも異なり、苦しい過去を告白する絶妙な設定といえるでしょう。

学校では、地域や能力の点で似通った人間が集められます。そのため、かえって違いが目立ち、短いつきあいなのに彼らへの反発と愛着は長く心の中に残ります。卒業して、もはやその友人を見(られ)なくなったとしても、どこかで存在を意識し、彼らからの距離によって自分の立ち位置や居場所を決めることも珍しくありません。学校をめぐる物語が追憶と相性がよく、実生活では男子校と無縁でも、そこを舞台にした物語が広く愛されるのは、このためでしょう。

「トーマの心臓」が下敷きになっている福永武彦の「草の花」は、そんな男子校小説の傑作です。こうした男たちの物語から隠れた主題を読み取ったり、物語自体をカスタマイズする最良の方法に、フェミニズム批評があります。最近だと北村紗衣の『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』が、絶好の導きになるでしょう。



『トーマの心臓』
萩尾望都：著
小学館／1975



『草の花』
福永武彦：著
新潮社／1956



『ふしぎの国のバード』
佐々 大河：著
KADOKAWA
エンターブレイン／2015-

佐々大河『ふしぎの国のバード』既刊6巻。明治に日本を訪れたイギリス人女性探検家イザベラ・バード。その『日本奥地紀行』をモデルにした漫画です。通訳として同行するのが伊藤鶴吉という青年。好奇心あふれるバードと、不審そうな伊藤らの双方の視線が描かれていて、そのすれちがいが見どころです。(2年)

一異国探訪の物語は、ポカホンタス伝説が原型となってきました。進んだ文明の担い手が、現地の社会と土地を調べあげ、略奪にいそむ。一方、相手の文化に魅了された男が対立に引き裂かれつつ、現地の女性と恋に落ちる、というものです。映画『サヨナラ』(1957)も、そんな一例。阪大近くの伊丹空港が米軍に接収されていた頃、そこから朝鮮戦争に飛び立つ米兵が日本人女性に恋する物語です。

もちろん、現実そんなに単純ではありません。ただし、男女のロマンスは気が滅入る現実をわかりやすく美化します。罪悪感まで歴史からとりのぞくので、常にどこかで必要とされる物語なのでしょう。『ふしぎの国のバード』は、この定式を逆手にとった漫画。男女を逆にし、アリスのような無知の女性がすばらしい「日本」に驚嘆するというわけです。

ただバードはイトウと苗字だけ記すなど、あくまで彼らは主従の関係でした(もともと、ガイドを特筆するのは当時では例外的)。それにバードは手練れの旅行家で、政府に情報提供するエージェントに近い存在でもありました。長く不詳だったイトウを伊藤鶴吉と発見したのは金坂清則の論文(2000)で、それを参考にして中島京子が小説『イトウの恋』を書いています。この漫画から読み取るべきなのは、もはや異国の眼を借りないと明治に共感できない落差なのかもしれません。



『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』
北村紗衣：著
書肆侃侃房／2019



『サヨナラ』
アメリカ映画／1957

『アラジン』
アメリカ映画／2019

ディズニー映画『アラジン』(2019)。題名は『アラジン』ですが、実際の主人公はジャスミンです。アニメの『アラジン』(1992)とストーリーも歌も同じなのに、最後にジャスミンが「スピーチレス〜心の声」を歌うことで、まったく違う話になっています。歌詞も「心の声あげて叫べ」と、女性に呼びかけた意識になっていて、比べても面白いです。(3年)

一好き嫌いは別として、21世紀のディズニーは、政治的に正しくかつヒットするおとぎ話を次々に作りだしてきました。これまでのありがちなプリンセス物語を大胆に読みかえるのは、関連商品がこれまで通り売れるよう、不買運動をあらかじめ見越した営業努力でしょう。自社作品のリメイクをなかなか許可しないことを考えれば、アップデートはなかば義務とさえいえるかもしれません。

実写版『アラジン』のジャスミン姫も、途中までは男に付き従うばかりです。冒頭の曲One Jump AheadからA Whole New Worldまで、アラジンに文字通り手を引かれてジャスミンは城を飛び出し、新しい世界を知ります。しかし、城内では大臣にも父である王にも、政治への口出しを禁じられます。衛兵の手を振り払い、叫ぶように繰り返す「スピーチレス」は、男たちの前で言葉を飲み込まざるをえない女性たちの心の叫びともなっています。こうして石に刻まれ、変わらないと思われていた法律がついに書きかえられます(アラジンというタイトルやスタッフの名前などが印象的に登場して、砂のように消えていく冒頭はその伏線でしょう)。一方、あてにならないはずの口約束がしっかり守られるのは、心憎い対比です。

アニメ版と比較すれば、実写版では女性が教室で読み書きを学び、本を読み、街中で働いていることに気づきます。おとぎ話も規範も、私たちが次第で変えられるという希望の現れでしょうか。なおアラジンが、One Jump Aheadを歌いながらジャスミンと逃げる場面では、2拍「3」連など、物語の鍵である3がそこら中に隠れています。ぜひ自分の眼と耳で探してみてください。